



平成24年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年9月13日

上場会社名 株式会社ナイガイ 上場取引所 東
 コード番号 8013 URL <http://www.naigai.co.jp/>
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 泉 潔
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部門担当 (氏名) 市原 聡 (TEL) 03-5822-3810
 四半期報告書提出予定日 平成23年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(プレス向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年1月期第2四半期の連結業績(平成23年2月1日~平成23年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年1月期第2四半期	8,004	△1.0	△87	—	△107	—	△139	—
23年1月期第2四半期	8,084	5.2	△284	—	△283	—	△408	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年1月期第2四半期	△1.88	—
23年1月期第2四半期	△5.52	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年1月期第2四半期	11,518	6,735	58.4	90.85
23年1月期	12,129	6,970	57.4	93.99

(参考)自己資本 24年1月期第2四半期 6,723百万円 23年1月期 6,956百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年1月期	—	—	—	0.00	0.00
24年1月期	—	—	—	—	—
24年1月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無: 無

3. 平成24年1月期の連結業績予想(平成23年2月1日~平成24年1月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,500	3.1	100	—	105	—	50	—	0.68

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】3ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
新規社（社名）、除外社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

- ② ①以外の変更 : 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年1月期2Q	78,281,815株	23年1月期	78,281,815株
24年1月期2Q	4,272,978株	23年1月期	4,269,791株
24年1月期2Q	74,010,757株	23年1月期2Q	74,024,732株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施しています。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想値と異なる場合があります。業績予想に関しましては、【添付資料】3ページ「1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績、個人消費ともに回復の兆しを示しつつスタートしましたが、3月11日に発生しました東日本大震災とそれに伴う原発事故の影響等により国内経済活動が大きく阻害され、さらには米国、欧州の信用力低下に伴う歴史的円高が進行、加えて依然混迷を続ける政治停滞への不安などから、先行きはきわめて不透明な状況が続きました。

しかしながら、当衣料品業界におきましては、震災直後は生活必需品を除き衣料品の販売はきわめて厳しい状況に陥りましたものの、4月中旬以降はファッション衣料を中心に個人消費が比較的順調に回復し、一部では前年を上回る推移ともなりました。

こうしたなか、当社グループは、震災前後を通し、一貫して今期に掲げております「売上拡大への取組み」「原価削減への取組み」「物流コスト削減への取組み」「人員効率を重視した営業合理化策の実施」の各基本施策を着実に実行するとともに、震災後に急速に変化した消費者ニーズに、できる限り柔軟に対応するための追加営業施策にも積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は8,004百万円で前年比80百万円の減収となりましたが、損益面では原価削減等による売上総利益率の改善と前期に実施した経営合理化策効果による販管費の削減により、営業損益は前年比197百万円改善し87百万円の損失、経常損益は前年比176百万円改善し107百万円の損失となりました。また、四半期純損益につきましては、第1四半期に資産除去債務会計基準の適用による影響額13百万円を特別損失として計上したことなどもあり前年比では269百万円改善し139百万円の損失となりました。

セグメント別の業績概況は次のとおりであります。

(卸売り事業)

主力のレッグウェア店頭販売の状況につきましては、2月から3月11日までは春物立ち上がり商戦が比較的順調に推移したものの、震災直後は首都圏を含む東日本地区を中心に大きく前年を割り込み、各販路とも大幅な減収を余儀なくされました。しかしながら、4月中旬以降は百貨店を中心に、復興需要、節電需要などの新たな需要が牽引し、概ね前年水準まで回復するに至りました。

そうしたなか、百貨店、専門店販路では、紳士靴下では4月中旬以降スポーツ系カジュアルソックスやショートソックスが堅調に推移するとともに、夏場の節電需要を見越して震災後に拡充したクールビズ対応商品が好調な売れ行きとなり、販売回復に大きく寄与し当初計画を上回ることができました。

一方、婦人靴下、パンストでは、これまでの売れ筋であったレギンス、トレンカのシェアが縮小し、トゥーレス、アングル丈などのセパレートタイプやサマーパンストが売れ筋に浮上、またソックス類ではシースルーソックス、レーシー調のショートソックス、ペッツなどアクセサリ感覚の新商品が売れ筋となり消費を牽引しましたが、シーズンを通してプレーンパンストが苦戦したこと等もあり、震災による減収影響をカバーしきれず当初計画を下回る推移となりました。

また、量販店販路は、収益力の改善を図るための営業合理化策を実施する一方で、主力得意先とのPB取組みは順調に進捗し販売を拡大することが出来ましたが、一方で、自社開発の機能軸商品は比較的順調だったものの、従来型のライセンスブランドソックスの需要失速をカバーするには至らず、合計としては当初計画を下回る結果となりました。

その他販売の、OEM販売、ゴム系販売、海外子会社販売につきましては、大きく震災の影響を受けることもなく、概ね計画通りで推移しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の卸売り事業全体の売上高は5,995百万円、営業損失は62百万円となりました。

(通信販売事業)

ナイガイ・イムで展開するテレビショッピングおよびカタログ通販につきましては、主力のQVCチャネルの震災発生後の放送休止により、予定番組が放送できなかったため大幅な売上減少となりました。この減収対応につきましては、4月以降の番組枠調整等により放送回数を増やすなどの対策をとり順次回復に努めた結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、当初計画を下回るも前年は上回るすることができました。

センチレーワンで展開するインターネットショッピングにつきましても、震災直後は大きく落ち込んだものの、4月以降は順調に前年レベルまで回復し、当第2四半期連結累計期間での売上高は前年を上回る結果となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間での通信販売事業全体の売上高は2,205百万円となりましたが、テレビショッピング売上拡大に伴う販管費の増加などもあり営業損失は22百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して611百万円減少し、11,518百万円となりました。流動資産では、現金及び預金が393百万円、受取手形及び売掛金が203百万円それぞれ減少し、商品及び製品が130百万円増加しました。固定資産では、無形資産その他がソフトウェア仮勘定の増加で67百万円増加し、投資有価証券が時価の減少により125百万円減少しました。

負債は、前連結会計年度末に対して376百万円減少し、4,782百万円となりました。支払手形及び買掛金が190百万円、短期借入金が185百万円それぞれ減少しました。

純資産につきましては、四半期純損失139百万円とその他の有価証券評価差額金の減少93百万円等により、前連結会計年度末に対して235百万円減少し、6,735百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.0%増加し、58.4%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動で118百万円の使用、投資活動で84百万円の使用、財務活動で183百万円の使用となり、為替換算差額等を加えた合計で393百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末残高は2,693百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失が120百万円となり、売上債権の減少195百万円の増加項目を、たな卸資産の増加139百万円、仕入債務の減少157百万円等の減少項目が上回ったため、118百万円の使用(前年同期は558百万円の使用)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得75百万円等により、84百万円の使用(前年同期は811百万円の獲得)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金で50百万円を調達する一方、232百万円を返済し、183百万円の使用(前年同期は500百万円の獲得)となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間では、東日本大震災によるマイナス影響も懸念されましたが、震災以降は追加営業強化策を実施する等で、各セグメントともに概ね販売回復をすることができ、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、概ね前回予測どおりの結果となりました。

この結果、通期業績につきましても、現時点では売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回予測範囲で着地するものと見込んでおります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

会計基準等の改正に伴う変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これにより、営業利益及び経常利益がそれぞれ1百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が14百万円減少しております。また、当会計基準の適用開始による資産除去債務の変動額は33百万円であります。

以外の変更

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度におきましては、主力である靴下の卸売り事業で、百貨店を中心とする既存販路が減収となった結果、営業損失を計上、営業キャッシュ・フローもマイナスとなりましたが、当連結会計年度につきましては、前期から推し進めてまいりました人件費を中心とする販管費の削減により、当第2四半期連結累計期間の業績も概ね計画通りの推移となっており、通期では黒字達成の見込みであり、7月末における資金ポジションから判断いたしましても、継続企業の前提に関する不確実性は回避できるものと判断しております。

今後も、以下に掲げる諸施策の確実な実行に加え、震災後の不透明な消費環境変化にも対応した営業施策を強化することで、早期の業績回復と安定した黒字化の実現に努めてまいります。

売上拡大への取組み

- ・スポーツ、機能、ファッション分野での高付加価値商品の開発強化と販売拡大
- ・スポーツ系販路、ドラッグストア販路の販売拡大に注力
- ・既存百貨店対策として自社ブランドによる売場シェアの拡大
- ・大手GMSとのPB取組み強化
- ・子会社による通信販売事業の更なる拡大
- ・中国代理商ルートでの中国内での販売拡大

原価削減への取組み

- ・国内生産での適時適品供給シェアの拡大(自動補充対象範囲の拡大)
- ・海外生産の強化(直接貿易の仕入強化)

物流コスト削減への取組み

- ・庫内作業工程(加工等)の削減による変動費圧縮
- ・施設の有効活用(外部物流受託等)による固定費負担の圧縮

人員効率を重視した営業合理化策の実施

- ・長期不採算取引の休止、上位得意先との取組みの強化(全販路対象)
- ・受注効率改善のため専門店受注方式を改善(ファックス、WEBの活用)

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,335	3,728
受取手形及び売掛金	2,573	2,776
商品及び製品	2,674	2,544
仕掛品	13	5
原材料及び貯蔵品	91	90
その他	255	359
貸倒引当金	36	43
流動資産合計	8,907	9,461
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	62	43
土地	61	63
その他(純額)	93	96
有形固定資産合計	217	204
無形固定資産		
のれん	10	21
その他	246	179
無形固定資産合計	257	201
投資その他の資産		
投資有価証券	1,916	2,041
その他	270	263
貸倒引当金	50	43
投資その他の資産合計	2,136	2,261
固定資産合計	2,611	2,667
資産合計	11,518	12,129

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,569	1,759
短期借入金	935	1,120
未払法人税等	27	47
賞与引当金	57	31
返品調整引当金	302	362
その他	619	604
流動負債合計	3,512	3,923
固定負債		
長期借入金	205	204
退職給付引当金	901	868
繰延税金負債	126	146
その他	36	15
固定負債合計	1,270	1,235
負債合計	4,782	5,158
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,592	7,592
資本剰余金	6,921	6,921
利益剰余金	7,300	7,162
自己株式	460	460
株主資本合計	6,753	6,890
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17	76
為替換算調整勘定	12	10
評価・換算差額等合計	29	65
少数株主持分	12	13
純資産合計	6,735	6,970
負債純資産合計	11,518	12,129

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年2月1日 至平成23年7月31日)
売上高	8,084	8,004
売上原価	5,527	5,393
売上総利益	2,557	2,611
販売費及び一般管理費	2,841	2,699
営業損失()	284	87
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	23	17
貯蔵品売却益	15	5
その他	24	10
営業外収益合計	65	34
営業外費用		
支払利息	7	14
持分法による投資損失	10	2
為替差損	35	23
その他	10	13
営業外費用合計	64	54
経常損失()	283	107
特別利益		
貸倒引当金戻入額	11	-
固定資産売却益	59	-
その他	1	-
特別利益合計	72	-
特別損失		
固定資産処分損	0	0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	13
割増退職金	183	-
特別損失合計	184	13
税金等調整前四半期純損失()	395	120
法人税、住民税及び事業税	13	10
法人税等調整額	-	7
法人税等合計	13	18
少数株主損益調整前四半期純損失()	-	139
少数株主利益又は少数株主損失()	0	0
四半期純損失()	408	139

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年2月1日 至 平成23年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	395	120
減価償却費	27	19
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	13
貸倒引当金の増減額(は減少)	29	0
賞与引当金の増減額(は減少)	-	25
返品調整引当金の増減額(は減少)	7	60
退職給付引当金の増減額(は減少)	501	33
受取利息及び受取配当金	26	18
支払利息	7	14
為替差損益(は益)	1	23
持分法による投資損益(は益)	10	2
割増退職金	183	-
売上債権の増減額(は増加)	271	195
たな卸資産の増減額(は増加)	30	139
仕入債務の増減額(は減少)	637	157
その他	566	122
小計	559	93
利息及び配当金の受取額	25	18
利息の支払額	5	14
法人税等の支払額	19	29
営業活動によるキャッシュ・フロー	558	118
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	555	-
有価証券の償還による収入	200	-
有形固定資産の取得による支出	15	6
有形固定資産の売却による収入	78	-
無形固定資産の取得による支出	44	69
貸付金の回収による収入	4	2
投資その他の資産の増減額(は増加)	33	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	811	84
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	500	199
長期借入れによる収入	-	50
長期借入金の返済による支出	-	33
自己株式の取得による支出	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	500	183
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	7
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	742	393
現金及び現金同等物の期首残高	2,811	3,086
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,554	2,693

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間(自平成22年2月1日至平成22年7月31日)

当連結グループは、同一セグメントに属する衣料等繊維製品である靴下、外衣の製造・販売を行っており、当該事業以外に事業の種類がないため該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間(自平成22年2月1日至平成22年7月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間(自平成22年2月1日至平成22年7月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、靴下等繊維製品の企画、製造及び販売を行う「卸売り事業」と繊維製品や革製品等の通信販売を行う「通信販売事業」から構成されており、これら2事業を報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自平成23年2月1日至平成23年7月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,799	2,205	8,004	-	8,004
セグメント間の内部売上高又は 振替高	195	-	195	195	-
計	5,995	2,205	8,200	195	8,004
セグメント利益又は損失()	62	22	85	2	87

(注)1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。